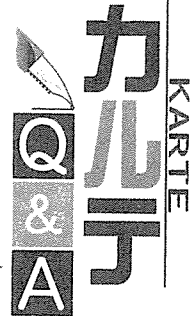


激しいせきが長期間続き、乳児が感染すると重症化する恐れがある「百日ぜき」。今年に入って累計患者数は7万人を超え、現在の集計法となった2018年以降で最多を更新するなど近年では経験のない流行となっている。専門医に対策を聞いた。



百日ぜき

2024年末から全国的に百日ぜきが流行しています。「百日ぜき菌」が気道に感染して起こる病気で、せきや鼻水などの風邪症状から始まり、発熱はないことが多いものの、せきがひどくなつて長引きます。コンコンと連続し

から成人まで感染し、特に小中学生が多いです。ほとんどの小中学生はワクチンを接種していますが、この年齢になると0～1歳で打ったワクチンの効果は薄れます。本来、年長や小学6年のころに3種混合ワクチンを追加接種する

や使い慣れない抗菌薬で治療しなければなりません。マクロライドの効きにくい菌が、ワクチンを接種していない0～1カ月の乳児に感染すると大変です。SIT合剤は、赤ちゃんの黄疸を重症化させて脳に障害を起こす恐れがあ

めには妊婦さんへの百日ぜきを含むワクチン接種が有効なのですが、日本では普及が不十分な現状です。(兵庫県小児科医会、高野智子II神戸市垂水区、たかのこどもクリニック院長)
◇第1、3、4日曜に掲載します。

生後2カ月、5種混合ワクチンを

たせきや、直後に息を吸い込むと「ヒュー」という音がします。赤ちゃんがかかると、十分に呼吸ができなくなり、死亡する例もあります。

百日ぜきのワクチンは3種混合、4種混合、5種混合ワクチンの中に含まれていますが、今年の百日ぜきは乳幼児

と良いのですが、ワクチンの供給が少なく希望しても打てない状況です。

百日ぜきの問題は、従来の治療薬「マクロライド系抗菌薬」が効かない症例が多いことです。流行している百日ぜきの60～70%はそうしたもので、「SIT合剤」というや

りますが、治療しないと百日ぜきによる呼吸不全で死亡する可能性もあります。

かからないためには、まずはお子さんは生後2カ月になったら速やかに5種混合ワクチンを接種し、流行地域では小学生以上はマスクで予防しましょう。赤ちゃんを守るた